

# 物性物理学 No.5

61908697 佐々木良輔

(1)

$$E(k) = E_0 - \alpha - 2\gamma \cos kb \text{ より}$$

$$\begin{aligned} \langle v(k) \rangle &= \frac{1}{\hbar} \frac{dE(k)}{dk} \\ &= \frac{2\gamma b}{\hbar} \sin kb \end{aligned} \quad (1)$$

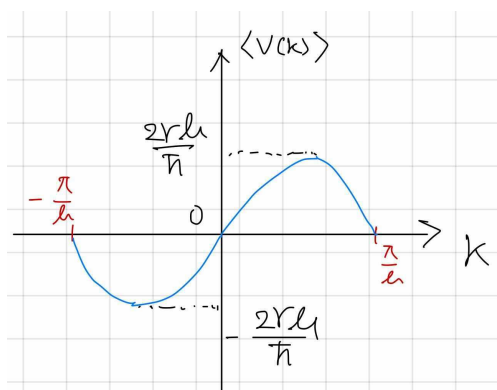


図1  $k$ - $\langle v(k) \rangle$  グラフ

(2)

$$\begin{aligned} \langle a(k) \rangle &= \frac{d\langle v(k) \rangle}{dt} \\ &= \frac{1}{\hbar} \frac{dk}{dt} \frac{d}{dk} \left( \frac{dE(k)}{dk} \right) \\ &= \frac{1}{\hbar} \left( -\frac{eF}{\hbar} \right) \frac{d^2 E(k)}{dk^2} \\ &= -eF \cdot \frac{2\gamma b^2}{\hbar^2} \cos kb \end{aligned} \quad (2)$$

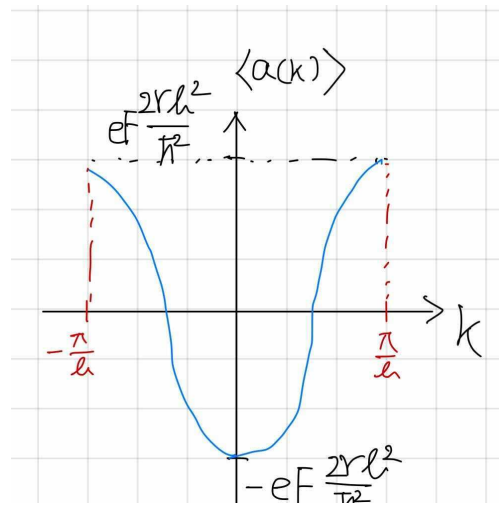


図 2  $k$ - $\langle a(k) \rangle$  グラフ

(3)

(2) 式から

$$\langle a(k) \rangle \frac{\hbar^2}{2\gamma b^2 \cos kb} = -eF \quad (3)$$

なので

$$m^*(k) = \frac{\hbar^2}{2\gamma b^2 \cos kb} \quad (4)$$

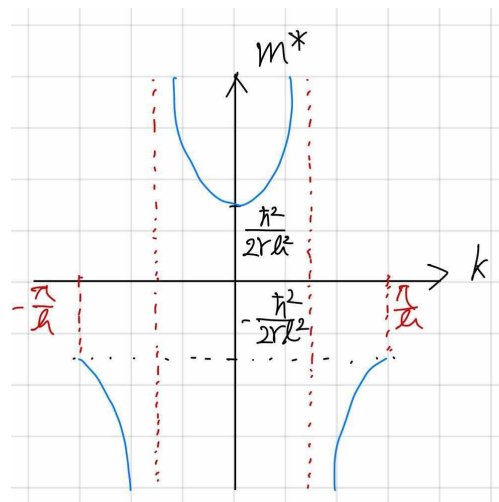


図 3  $k$ - $m^*$  グラフ

(4)

(1) 式を  $t$  で積分すると

$$\begin{aligned}\langle x(k) \rangle &= \int \langle v(k) \rangle dk \\ &= -\frac{2\gamma}{eF} \cos kb + x_0\end{aligned}\tag{5}$$

ここで  $k(t) = k_0 - eFt/\hbar$  なので

$$\langle x(t) \rangle = -\frac{2\gamma}{eF} \cos \left( k_0 - \frac{eF}{\hbar} t \right) b + x_0\tag{6}$$

となり電子が振動することがわかる.  $k(t) \propto t$  であることから図 3 において  $m^*$  は時間経過と共に左へ単調に進行することがわかる. すなわち有効質量は  $k_0$  で最小をとり, その後  $t$  の経過と共に増加,  $k(t) = \pi/b$  で正から負に転じる, すなわち運動の方向が逆転する.  $m^*$  は周期関数なので以上を繰り返すことにより, 電子が振動することがわかる.

(5)

(6) 式から振動の角振動数  $\omega$  は

$$\omega = \frac{eF}{\hbar} b\tag{7}$$

したがって周期  $T$  は

$$T = \frac{2\pi\hbar}{eFb}\tag{8}$$

(6)

(8) 式から Bloch 振動が安定して起きるためには

$$b \geq \frac{2\pi\hbar}{eFT_{lim}}\tag{9}$$

ここで  $T_{lim} \simeq 10$  fs は散乱が起きるまでの平均時間である. これを計算すると

$$b \geq 2.6 \times 10^{-6} \text{ m}\tag{10}$$

となる.

(7)

電子は原子核の熱振動によって散乱される.